磐城新聞
(廿六日夕刊)
休刊 大祭 第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料 一行五十錢(指定廿錢増)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社

隨筆

人家稠密

閻高　太郎

僕の知人が或るところで揮毫を所望された、無溢揮毫などする柄ではないのだ、誠意を披攊して斷つたのだが先方では謙遜するのだと感違へしてか何うしてもきかない、詮方盡きて「人家稠密」と一代の惡事を揮つて逃げるが如く歸つて來たといふ。

一体「人家稠密」といふ文句はどうしたのかと聞いたら曰くが華台い、

ナアニ小學校のお手本にあつたのを思ひ出したのさ、だと「人家稠密」の揮毫はけだし振つてるではないか、書く奴も書く奴だが書かせる方も書かせる方だ

然かし世の中にはこういつた事が可成多いではないか、人を見て法を說けといふ事があるが人間はさうう前能のものばかり居る理ではないのだから出來ない事を望むのは間違つてゐるのだ、口の人は口を便つてやるがよい、腕の人は腕を認めてやればよい、各時徴を認め適材を適所に置く事は人物經濟の上にも極めて肝要な事だ。口も八丁手も八丁などゝいふ人は千萬人に一人だ

藝の好いものは大てい顏がまづい事に相場がきまつてゐる

ところが「人家稠密」と書いて自ら恥ぢて逃げ歸るのならまだ自已を見る明ありと申すものだがその程度で一ぱしの書家を氣取る樣な誇大妄想狂が世間には大分のさばつてゐるから始末が惡るい。

平から關西の旅(一)

平町　城山隱士

○昭和四年三月二十日我が皇室の御大廟たる伊勢神宮及曠古の御大典たる大嘗祭、紫宸殿の御儀の後景を拜觀せんがため暫くの休業期間を利用して同行者十人相約して旅行する事にした、今其旅行記を試に記述して見る。

○何時の頃、又如何なる人の作かは知らんが我が石城には頗る不似合の俗謠がある、夫は皆樣既に御存知の

人の惡いは石城の平
夫に續いて小名の濱

と云ふのであるが、是は事實相違で石城ノ平の人は特別人ア惡いと云ふ證據がない、そこで解釋する人曰く、是は人の惡いのではなくて水が惡いのであるどうかそうでもあらうか、曾て大正天皇陛下が東宮にたはしまし際、東北御巡幸あらせられたが我が平町は御宿泊がなくて、双葉郡富岡町に龍駕を止めさせられたと云ふを聞くに及んでは水が惡いと云ふも證據立てする事が出來る、然も是も平町の理事者即ち前の町長伊坂員正君、及現町長伏見彥衛君町議諸君等の經營と之を贊助する町議諸君等の議決宜しきを得た爲に今日は既に立派なる水道が出來、且水質は誠に良好で日本全國を比較しても水質に於ては未曾て一、二等を下らないと云ふを聞くに及んでは幾十年か、二百年かを言へ古した俗謠も之を根本的に訂正する必要を感ずる、但是等俗謠なるものは各地至る處に有るもので譬へば備前の岡山には

わたしや備前の岡山育ち
米のなる木はまだ知らぬ

と米のなる木を知らないのを誇りとする所謂士百姓の臭ひを知らぬ高貴を裝ふ俗謠が有るが、是等の俗謠は少くとも普通教育の徹底せる今日殊に恐れ多くも今上天皇陛下が御自ら御田植なり御刈入なりを行はせらるゝ、今日米のなる木をまだ知らぬとは實に申譯が無い是等は根本的に改造せねばならぬ俗謠である、又夫れ〳〵地方の特長を現はす俗謠もある

赤井嶽から吹き來る風は
平繁昌と吹き下ろす

赤井嶽の山頂より吹き下ろす石城、空風も斯ら歌はれては意味有り氣である

赤井嶽から谷底見れば
茄子や黄瓜の花盛り

とは平窪、赤井、好間邊の農家の副業の發展振りが見え

朝の六時からカンテラ
下げて坑内くゞりも
主の爲め

とは夫婦共稼ぎの炭礦働きが見れて面白く

田舍なれども赤井嶽藥師
磐城七濱一眺め

とは磐城七濱の漁業が有名なると同時に赤井嶽の名所たるが見え

秋は赤井嶽に月が冴へる
冬は三函の山の雪

とは磐城の名所も其處此處に多いが其中赤井嶽は遠近其名聞ゐて著しく、近來は金華山の牝牡の鹿さへ移し住ませて人懷しくなつたと聞く、兎に角是等の俗謠にて名高き石城平を其朝午前二時十八分準急行の列車にて出發したのである

實感耐句稿

【櫻】　小川　若松超寃

夜櫻に句案の心うつろなる
木靈する竹刀の音や花吹雪
花の下ラヂオ圍みて人の起つ

同　吉岡獨歩

杉の闇深々と花の片睡り
子の手から乞ひ受けし櫻山櫻
入を醉はせた花はにさらばおさらばよ
健見等が劍術すなり花にして

同　松本松甫

山川の流れもあえず花の屑
廣前に花の吹雪の吹溜り
花の上に千木ほの見ゑて宮遠し

同　山崎清風

暗ゆこを謠ふによけれ夜の花
神樂殿に謠ふは誰が子ぞ花の宵
角力ひるあり劍を擬する花の子等

明日の吉凶

舊曆三月十八日　新曆四月二十七日

▲一白 急速なる發展を望むときは却て蹉跌すべし▲二黑 隆運の日にして何事にもよし但し口舌注意▲三碧 奇利は無くとも尋常に働けば相當の伸びあり▲四綠 人の力を借らず熱心に己が分限を以て勵め▲五黄 乏しきも一時のこと働けば大に裕かなるべし▲六白 飲食と進退とを愼み中を守り偏せざるが吉▲七赤 抗すれば抗するほど逆運に見舞はるべき日▲八白 實力を以てすることは難事と見へてもとほる▲九紫 目前の小利にあせらず永遠の志を立てるに吉

講談

(218)　渡邊默禪作　宮野歌春畫

その響の下に雪江はぶら〳〵と身振ひして男のひじに取り着いたまゝかいなに強く力をこめ、無言にその顏を見上げたが、激しい感情のゆらめきは肩から乳のあたり雪白な肉をうごかせてうすあいの浴衣の上に波打たせるばかり情に燃ゑた眸は星の如く輝いて見ゑた

「サア、どけ徳川武士、一朝の浮沈だ」叱する聲が頭上に落ちた

「はいッ!」

うつとりとなつた雪江は夢から醒めた樣にむつくとび起きた

×　×　×

トテトテト、トテトテト、どゞん、どゞどん、わア―急調な喇叭の叫びに連れて天地を震撼する砲聲その煙の下からとつかんの唸りが揚る。

水彩畫の藍をぼかした上野の森は、雨煙る五月空の陰鬱な朝に明けて丹塗の伽藍高樓に睡ります。二十五菩薩起よと突く鐘の音も絶ゑぬ間に何事ぞ忽然として地に捲き起る修羅の血吹雪

軍務局判事大村永敏の指揮の下に曉かけて進擊した官軍は二十八藩、二萬八千八、湯島から進んだのは薩摩、肥後、因幡の兵、本鄕から長崎門、肥前、筑後、大村、佐土原、肥前の兵隊は、富山の屋敷、尾州筋、津の兵は水戸屋敷く後詰めとして控へ尾州紀州の別隊、阿波新發田の兵は橋々を扼して一人も洩らさずと上野の山をかこんだ。

山にこもる幕軍は其の數千五百人、池田大隅守、澁澤誠一郎を頭として、純忠隊遊擊隊、猶興隊、八聯隊、神木隊、浩氣隊、マンヂ隊臥龍隊、精忠隊、その他十餘團の逸雄物々しやと接戰の準備上野の三枚橋に土をんを築き黑門をかためて必死と遮る。

鬼梶原は戰の最中に驅けつけた。

篠を亂て降る雨にづぶぬれとなりながら我先きにと一隊てふためき銃音に耳をふさぎて逃げ行く市民、さながら火祭場、似た混亂の巷を駈け拔け、下谷の竹町から廣小路の方へ出て見るとすし黑門を目がけて攻め寄せた藩州肥前の兵と彰義隊とまんぢ戰とか接戰のさなか、盛に銃火を交ねて末が双方から突貫して白兵戰になつたところ敵は呉服店松坂屋の前かと味方は山王臺に各々臼砲、四斤砲を据ね着けて間斷なく打ち出す巨砲梵鐘の寸裂するが如き凄まじの唸りと響を揚げて空をつんざき林を砕き、地を震はし砂をとばす、その硝煙の濛々たる中に白刄を閃めかし槍を揮つて斜に横に渦卷く人の影、正に是れ生ける修羅地獄の繪卷物、梶原は別に武裝の用意もしてなかつた。向島を出る時に雪江がはなむけとして贈つて呉れた肌護符と十兩の小判を入れた胴卷とをしかと懷中に卷き着け刀の下緒で袖を絞つて尻からげの身輕ないでだちをしただけであるが大阪の鴻の池から受けた大業物が唯一の功名道具三枚橋の束から蓦然として躍つて出て追つゝ返しつゝ戰つてゐる官兵の側面から不意に斬込んだ

春向が深山入荷いたしました
ナフトール着尺
モスリン
セル
ネル
帶皮
其の他色々
どうぞ御用命を願ます
龜田屋
電話五七

廣告
平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

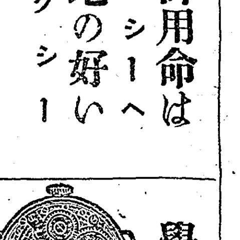
貸切自動車の御用命は
高級車で乘心地の好い
昭和タクシーへ
平驛前
昭和タクシー
電話は　三四三番
サシミ

スッポン飴　一圓　三圓
スッポン酒　二圓
スッポンヘモクロピン錠　三圓
平町五丁目角
山野邊藥局

夜間診療
胃腸
梅毒
内科　十二指腸虫病　專門　内科部
淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

毛糸
防寒用には
丈夫で暖い
英國製毛糸
一オンス　十九錢　二十五錢
手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器　八〇、〇〇
撮影器　六五、〇〇
フヒルム　一本　二、〇〇　二、五〇
生フヒルム　一本　一、〇〇
市内はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
平町二丁目
パテーベビー社代理店
西村屋藥舖
電話三番

學生用腕時計元價提供
時計が無いので學校が遲れたなど、誠に不成績の原因となります僅かで然も特價で求められる此時期に是非御買求を願ます

特價保險付品
十五石入腕時計
一クローム　男用十形　女用九形　瑞西製
一金六圓八十錢均一
平三　大谷時計病院
電話一九番

内科、小兒科(院長每日診療)
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄次
内科部長　中西林藏
外科一般
外科部長　醫學士　氏家憲介
毎日曜手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長醫學士　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
×光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫務法制囑託　法學士　岡蕃
本院主事　賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一衞生試驗所(共濟病院内)十一月一日ヨリ開始
一病氣相談所(共濟病院内)十二月一日ヨリ開始
一救療所(共濟病院内)十二月一日ヨリ開始
磐城　共濟病院
看護婦見習募集
平町電話六四一番

内臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

平町田町
高久病院
電話五〜三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

健康第一
健康は胃腸から
ホシ胃腸藥
クスリはホシ
星製藥株式會社
東京・大阪

愈々あすから開く 縣聯合青年總會
大久保學務部長も出席 協議事項その他

縣聯合青年團第八回總會は明二十七日午前十時から平町磐城中學校講堂に於て開催する順序は

一、開會の辭
二、國歌合唱
三、令旨捧讀
四、會議（一）庶務、會計報告（二）役員選擧（三）諮問（四）協議
五、講演（演題未定大日本聯合青年團理事後藤文夫氏）
六、團員意見發表
七、閉會の辭

午後三時解散する筈で縣からは大久保學務部長、新見視學課長、中曾根主事其の外多數臨席し縣下より五百餘名の團員參集するから非常な賑ひを呈するものと觀られてゐるが當日意見を發表するのと各團提出の協議事項左の如し

△意見發表

（行詰れる日本を打開すべき鍵のありか）安達郡白木義永（農村と青年）耶麻郡安部市郎（未定）郡山市山田善之助（百姓の生きる途）河沼郡小島平兵衛（未定）雙葉郡佐々木弘綱（昭和青年の使命）石城郡神谷市郎（農村と使命）吉田利吉

△協議事項

一、近年農村青年の都會集注逐次增加の傾向あり之れか對策如何（石城郡聯合青年團提出）
一、本縣聯合青年團總會及體育大會を白河町に開催するの件（西白河郡聯合青年團提出）
一、本縣男女聯合青年團學業奬勵資金の利子は各郡市男女聯合青年團に交付し學業を奬勵せられんことを知事に建議すること（若松市聯合青年團提出）
一、青年團體の事業奬勵資金より生ずる收入を全部縣聯合青年團に補助されんことを當局に建議すること（河沼郡聯合青年團員小島平兵衛提出）
一、縣聯合青年團春期總會開催前日に縣聯合青年團主催の許に縣下青年雄辯大會を開催すること（安積郡聯合青年團提出）

△諮問事項

一、青年團振興の適當なる方法如何

小名濱江名の 海岸砂利
知事に管理權

石城郡小名濱と江名の海岸線砂利採取管理權は從來大藏省が有してゐたので不便多く内務省へ移すやうしばしば加勢知事より要求してゐたが今度いよいよ内務省に移管し本縣知事に管理權を委任するに決定した

飯野村議改選
候補者亂立せん

石城郡飯野村議改選は六月上旬執行されるが普選關係から候補者亂立の傾向があり再新相伯仲するに至るべく定員に對し倍數を豫想され競爭激烈を極むる模樣である

中產階級が多い 石城の土地分布
土地の力の偉大さを 阿部直稅課長語る

平稅務署管內（石城郡）に於ける地租納稅總額は十八萬五千八百九十六圓にして納額別に見れば五百圓以上二人、二百圓以上廿七人、百圓以上八十一人、五十圓以上一百八十三人、三十圓以上八百廿三人、廿圓以上千二百七十五人、十五圓以上千百八十八圓、十圓以上千九百二十一人、七圓以上千二百九十八人、七圓以下二萬二千八百廿四人の合計二萬九千八百二十四人の多きに達してゐるが右につき阿部直稅課長は語る

管內の有租地は田は八千七百步畑は五千四百步宅地は三百三十六萬二千坪山野原野三萬四千町步の廣汎なる面積を有し然るに之等の土地より產出されるものは米の十五萬三千石大豆の七千石、麥三萬九千石其他林產物六十萬圓と云ふ莫大の數を表はし誠に土地の力の偉大なるに驚かざるを得ない其納額別分布は實に他地方に見ざる傾向を示し土地兼併の弊の痕なく概ね中產階級のものに均霑しあり從つて他地方に見る小作爭議或は地主と小作人間に於ける物議等の起らざる理由も又茲に存するものと云ふべく然れども逐年の經濟界不況は均しく農村に對しても其の影響深刻なるものあるは爭はれざる事實にして其結果土地賣買或は競賣等に依る所有權移轉筆數も前年二萬五百餘筆の多數に上り前々年に對比し夥しき增加を見てゐる狀態である

家出人の搜査に 大童べの平署
新芽の春から秋に 親達も注意せよ

石城郡地方は炭礦その他の關係から春が深まると共に家出人が多くなるので各警察署は不斷の注意を拂つてゐるがこの家出の原因は人により境遇により年齡によつて違ふが大抵の場合は家庭の調和を缺いでゐるのが一つの大きな理由となるので、たとへば家族が自分に同情をもたぬといふことに即因し、次に年齡から見ると大體は十五、六歲ころから卅一、二歲といふところまでが家出人の大部分をしめてゐる、殊に十六七歲から二十一歲位の青年男女は隨分思ひ切つたことをやりかねないで時期は草木が新らしい芽を出しそめる今ごろと秋の落葉する時分が人々の心に動搖を與へる時で若い子女を持つ親達ちは常に家庭平和の中心となり自分より新らしく生きる子供のために正しく導いてやるよう仕事ないとの事である

小名濱町に 檢事正
大敗事件取調

小名濱港大敗網紛爭問題は事態益々險惡となつて來たので、福島地方裁判所檢事局から福岡檢事正は小松書記を從へ縣警察部からは鶴田特高課長は二十五日午後二時四十五分福島發列車で急遽現場に急行したが双方の事情を篤と調査の上圓滿調停するやう斡旋を行ふべく見られてゐる

若松軍旗祭に 酒代を寄附
郡聯合青年で

石城郡聯合青年團では去三月二十一日平町磐城中學校に開かれた幹部協議會に於て若松第二十九聯隊の軍旗祭は軍人ばかり祝賀するものでない、國民皆兵の意味から共に祝ふではないかと寄々協議し昨二十五日擧行した軍旗祭祝賀宴に酒料金十二圓を寄贈したが縣下最初の發案で他團の模範であると各方面から其の行爲を賞讃され近來の美談として噂されてゐる

國庫補助の立替ひ 淺野翁が快諾
斯くして小名濱商港の 年度繰上げ運動

石城郡小名濱商港はいよいよ來る五月十七日盛大に起工式を擧行することに大體決定を見たのでそれぞれ準備を急いで居るが同港は四年度から六ケ年繼續事業で完成年度は昭和九年となつて居るため餘り完成年度が長期に亘るので地元小名濱町有志は完成年度繰上運動を開始したが國財政上に關するので實現容易でないため過般有志が淺野總一郎翁に工事の年度繰上に依る國庫補助金の立替へを交涉した結果翁がこれを快諾したので町有志も大に力を得近く實行委員を擧げ起工式直後直に上京主務省に完成期繰上げ猛運動を開始する一方縣當局に對しても同樣の運動をなし極力實現に努力することになつた

馬君の貧血
豫防補助金申請

別項馬の傳染性貧血豫防施設につき本縣は各產馬組合に對し是れが徹底方を申請して置いたが石城產馬組合では昭和四年度の收支豫算二千八百十四圓を添付して山本農林大臣に事業費補助交附の申請をしたが內譯は技術員一名を置き月給九十五圓を給し、旅費一ケ月三十圓、管外旅費其他百五十圓と助手延人員三十五人七十七圓が主なるものである

役者の舊惡
植田町を荒す

目下郡山市綠座で開演中の連鎖劇市川一座の雜夫河沼郡野澤町佐伯良太郎（二六假名）は去十九日夜石城郡植田町臺町山本丑之助より金側時計一個價格三十圓を竊取逃走した事が發覺され二十三日郡山署に擧げらる

磐中運動會
來月五日に開く

磐城中學校第三十一回春季運動大會は來る五月五日午前八時より同校グランドに於て擧行すると

產馬の功勞者

石城郡三阪村富澤兵吉氏は產馬功勞者として來る五月五日午前十時から開かる郡山市開成山馬匹共進會は於て縣產馬畜產組合より表彰さる

櫻花全く散る
常夜燈も取拂はれて 新綠への松ケ岡

平町松ケ岡公園や新川端の櫻は滿開で一番觀櫻客が出盛るころに無情な雨と暴風にたたられ例年に比較して人出がその半分にも達せず却て遊廓その他花柳界が常例を破つての好景氣といふ珍現象を示した、櫻に趣きを添へるため點燈されたる雪洞も葉櫻と變つた二十四日から取拂はれて眞ッ暗闇になつた公園はきのふに變るあさましい姿となり杖つく人の數もまばらに最早平町の花見氣分は過ぎ去り之れからは新綠の下にそぞろ歩く人々で公園は賑ふ事であろう

菊多會總會
準急停車の運動

石城郡植田町地方の有志よりなる菊多會春季總會は去る二十三日午後五時より山田屋本館に開催され新任植田警察署長田口喜孝氏外數名の入會あり、會員數十名出席盛況を呈したが、從來運動中なる準急行列車の停車は實現の可能性充分なりとの見込で引續き現幹部により運動を繼續する事となつた

馬の脚と家出
父から搜査願ひ

石城郡內郷村磐城炭坑第三斜坑三號の一長屋太一郞長女二木キヨ（二二）は二十二日午後七時頃郡山綠座に開演中の若親一座の旅役者山夫正夫と手をとつて家出したので二十三日親元から郡山署へ取押へ方願出でた

愛谷江筋料水
サイホン內部に破損 關係農民大狼狽

平町外四村の灌漑水路たる愛谷江筋の縣營改修工事は既報の如くであるが好間村川中子地內の夏井川に旋工するサイホン式セキは此の程完成し二十四日より全區に亘り水通したが廿五日に至り俄然河底七尺の位置にある水管の內部に破損の個所生じ改修工事の爲め二十六日朝斷水の止むなきに至つたが約二週間を要すべく苗代蒔き上げ直後の事とて狼狽してゐる

娼妓の寫眞
盜むだ變り男

平町鎌田遊廓住吉樓こと檜山謙方の娼妓の寫眞陳列所にかけてあつた娼妓都の寫眞が去る二十二日午後八時頃何者かに竊取されたので屆け出でにより平署で搜査中石城郡高久村荷馬車挽業鈴木國近（三三）が盜みそれを平町月見町飲食店松本かよ方に隱匿して居たこと發覺平署に檢擧されたが同人は寫眞をながめては一人悅に入つて居た變態性慾者であると

平町の藝娼酌婦 勿驚六百五十人
此の借金約四十五萬圓で 一人平均七百圓

平署管內に於ける接客職業婦人と云へば無雜に聞らが同じ人の子でゐる身を前借に縛られて酒席其他に客の機嫌氣づまをとる白粉人の現在は酌婦一六二水仕二三七藝妓二〇〇娼妓四二合計六百四十一人により此前借總額は水仕四萬二千六百三圓其他に於て四十圓一千八百四圓計四十四萬四千四百七圓に達してゐるのを一人當りにすると七百圓弱である

磐越の出張所

磐越銀行では新山出張所並に小川郷出張所を廢止した旨廿四日縣經由大藏大臣に屆出をした

馬に蹴られ
傷管破裂さわぎ

川部村瀬戸園部松次郎（四二）は二十四日野良仕事中自家の飼馬に腹部を蹴られ腹管破裂しは騷ぎに平町安齊外科醫院長が解腹手術を施したが經過良好である

喜樂の開業

平町新田町元鳥勇跡に開店した（喜樂）は手輕料理自慢の美味と廉價で喜り出そうと茲許大馬力で好評

共濟病院に 新博士
桂氏の榮譽

平町磐城共濟病院外科部長醫學士桂重次氏は曾つて博士論文「レントゲン線の血液並に脾臟に及ぼす物理學的作用に就て」を提出中の處通過し今二十六日附官報を以て醫學博士として發表された昨年より引つづき三人の醫博を出した同病院は名譽として誇つてゐる

福島の山神祭

石城郡赤井村福島炭礦の山神祭は來月五、六の兩日擧行する

或る女給の手記
僞らぬ懺悔の一節

あたしはカフエーの女給であります、女給などゝいひば皆さんはどこの馬の骨だか位にしかた思ひにならないでせうがこれでも元は歷氣とした農家の娘でした、少しばかりの資產がありましたので性來体質が弱かつたのでなまじ學校の敎育をうけたのが抑々わたしの身を永久に取返しのつかぬものにしてしまひました、然しわたしは幸福な娘として十九の春に同じ年ごろの人々の羨望を集めて兎に角學校を巢立ちました。

學校ではこれとして得意なものは何もありませんでした、さうして學校には必要のないものにして讀く小說や詩などを讀み耽ることに沒頭することを何時の間にか習慣づけてゐました、そのころからわたしの頭には妙な感情が燃え出してゐました、そのころからといふもの若い男のかたなどを見ると唯往來ですれ違つただけで男の香りが妙に魅惑的な迫力を以てわたしの心に刺激を與へるかに氣がつき出しました

學校を終つてからクラスの誰れ彼れさんや村の同じ年ごろの人達がめいめいに嫁いでいらつしやいました、そして一年も經たぬ內にた子さんをたんぶした幸福さうな級友の姿などを見せつけられました、そんなことを見たり聞いたりしてゐるわたしの心は自然一種の焦燥に驅られない譯に參りませんでした、而して焦燥——この焦燥こそはわたしを驅つて現在の運命を辿らしめたものでした

尤もその焦さうには勿論彼等に見せびらかしてやらう、さうして彼等に對して自我的な優越感を滿たしてやらうといふやうな一種の敵意すらおつた位でした、ところが總てはわたしの自制の足らない結果とはいひ本當に儚なな瞬間的なスヰートな夢が覺めたと思つた時は既に底なし沼に身じろぎも出來ない身體になつてゐました

罪はわたしにあること勿論です、然し社會が容れて呉れなければ致し方がありません、まゝよ三度笠青空を天蓋に運命に流れ流れるより外に道はありません、自分ですら恥かしいと思ふやうなケバケバした着物に人目には美しく見ゐるかも知れないがわたしにとつては手負へる孔雀です、愛し子の身の上など物思ふ日が續く時は客のお愛憎がないのなんのと叱られます、まゝよどうともなれいやなことはだれが何と言つたつてわたしは厭だ

開店披露

御手輕御料理 美味と廉價が自慢

◎多少に拘はらず迅速配達

平町新田町（先鳥勇跡）

御料理 喜樂

廿七日ヨリ六日間限り

市川松之助、泉春子、林 桂子
梅若禮三郎、原良介、月村節子

金五郎改心錄 全

小さん金五郎の其盡の消息を唯？知る魅惑的な此物語りこぞ蠱惑的な內性美人と豐醇なる叙情詩に綴られし奇緣宿命戀と及の綺卷の如き此の物語り

鈴木傳明、八雲惠美子……主演
スポーツの此の時傳明獨占の大活躍

陸の王者 全

我等其名ぞ若人よ……今日を恥なく生んかな大地を賭くる戰ひは……榮冠永遠の光あり

常盤操子、久米讓、澤村春子、中村英雄
淺見勝太郎……共演

斑蜘蛛 全

長寄の暗港に龍神丸は姿を現はした斑蜘蛛の一團女頭目夜櫻お蝶にまつはるマンジトモイの大血淚悲壯捕物

說明 石井孝

土曜日 學生チ一 入場料普通

日活 松竹 平館

謹告

編輯及印刷上の都合に依り本日定時發行を兩三日相遲れますから讀者の皆樣へ御詫び致します然し特別の讀ものとして

一、昨今風雲急を告げつゝある小名濱大敗網嚴正批判
一、大評判を惹起したる紙上裁判の解決其他

四月二十五日

磐城之實業社

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工塲並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番